

加 佐

3学期始業式号

令和8年1月8日

舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



才能と努力と、人との出会いと感動と



新年あけましておめでとうございます。2026年がいよいよよい年になるよう皆様と力を合わせていきたいです。引き続き、ご理解とご協力をおねがいします。

年末年始は、やっぱり駅伝のお話をさせてください。（感動シーンが多すぎて、観る側が受け取る感動量！も満タン溢れています。）とはいえ、私たち一視聴者にとっては、勝敗や記録など、メディアを通して伝わってくる情報に頼ることになります。いくらか指導の現場を経験したものとしては、レース中継からは見えにくい、過去の経緯や日常の苦勞などに興味があります。

全国高校駅伝：女子優勝の長野東。1区からの首位独走、盤石のレース展開で2連覇。名選手を輩出する強豪校も、強化が始まった20年前には公立高ならではの悩みや苦勞があったそう。その年に入学した3名の生徒との出会いから今の礎が築かれたストーリーに強さの秘密を知って、二度、感動！

男子優勝の学法石川（福島）。高校スポーツ界では、陸上以外にも名立たる学法石川が念願の初優勝。土のグラウンドでの「トラック練習」「スピードトレーニング」にこだわったことが、後々息の長い選手の育成につながっている。中長期の視点とポリシーを貫く大切さ。

大学女子選抜富士山駅伝：城西大の逆転劇、1年生の活躍。「この学年で優勝を目指す」「選手がチームを作る」「人を呼び寄せ合うチームの魅力」、選手と指導者の出会い、4年間の思いの強さが画面越しに伝わってきました。

実業団ニューイヤー駅伝：GMO島津雄大選手、創価大時代から注目していたランナー。進行性の目の病気（網膜色素変性症）を抱えながらトップを走り続ける姿に勇気をもらった。病気の進行には抗えず、今後は2028年ロサンゼルスパラリンピックを目指すとのこと、引き続き応援したい。

関東学連箱根駅伝：箱根の山に「朝日のぼる」驚異の区間新に注目が集まりますが、出雲・伊勢とは決定的に違う「箱根の特殊性（5区6区のスペシャリスト、10人+αが20kmに対応できる走力）」に焦点化したチーム戦略の強み。今後は女子チームの創設など話題に尽きない。革新派：原晋監督の「経営戦略」には学ぶ点が多い。優勝インタビューで「黒田朝日選手の強さの秘密は？」と問われた原監督の答えが「内臓です！」に納得。あらためて食生活、寮生活の大切さに認識が高まる。質の高い練習とともに、質の高い休養に注目したい。

出場できなかった大学からの選抜チーム「関東学連選抜」の活躍。調整の難しい混成チームにおいては、選手一人ひとりの自己管理が何より重要。「自律・自立した選手が増えたことの証明」だったと感心。

全国大会を目指す多くの生徒・学生が、年間をとおして、目標をぶらさず、計画的・継続的に練習に取り組んだこと。当日の体調不良や、願った記録や成績が叶わなかったとしても、その過程で育んだ「人間力」が尊い。勝敗や結果はそれぞれに、感動と称賛、反省と激励、様々混ぜ混ぜして、彼らはこれからも走り続ける。見ていた我々も元気をもらって1年がんばる。

「人との出会いが感動を生み、その感動が人の心を動かす。」そんな教育現場でありたいです。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同